

平成29年度 第2回 地域活動実践講座 実施報告書

日時 平成30年2月21日（水）
 会場 かでる2・7 10階 1030会議室
 参加者 19人
 内容 1.実践発表 2.グループ討議 3.講評

1.実践発表



丸尾 清一 氏

私の実践 「近美を愛するブリリアの会」の活動

- 活動に至る経緯
- 活動の呼びかけ（マンション全戸にチラシ配布）
- 活動内容の紹介
 - ・清掃活動（4月から11月2週間に1回）
 - ・会報発行
 - ・親睦会実施
- 『地域の課題・問題を自分事として考えませんか？』という呼びかけ

ココに注目！！

何か困りごとや課題があったとき、諦めたり行政に苦情を言う前に、自分にできることはないかを考え、自分事として取り組む姿勢をもつことが地域活動の第一歩だということを伝えてくれました。

ココに注目！！

身近に困っている人がいても、「こんなことで困っている」と声を出せる人は少ないので、常にアンテナを高くして、状況把握に努めることが重要だということを伝えてくれました。

「私の地域活動」

- 民生委員としての活動（地域住民と行政のパイプ役）
- 町内会役員としての活動（参加者固定化、底辺を広げるために、ふれあいサロンを発足させた）
- 老人クラブ活動（担い手不足により解散・消滅）



平川 省三 氏

2.グループワーク

3つのグループに分かれ、地域活動実践レポートの発表と交流を行いました。

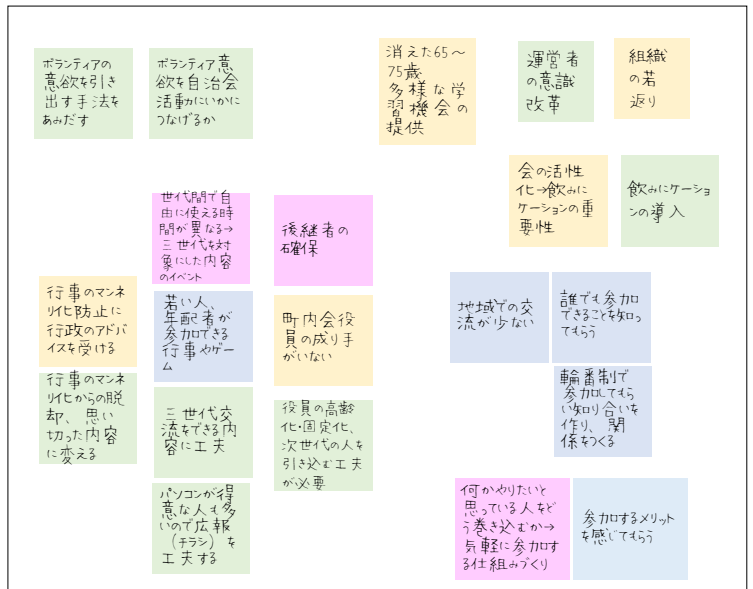
- 地域活動における課題の共有
- 課題解決策の話し合い



Aグループ

主なキーワード

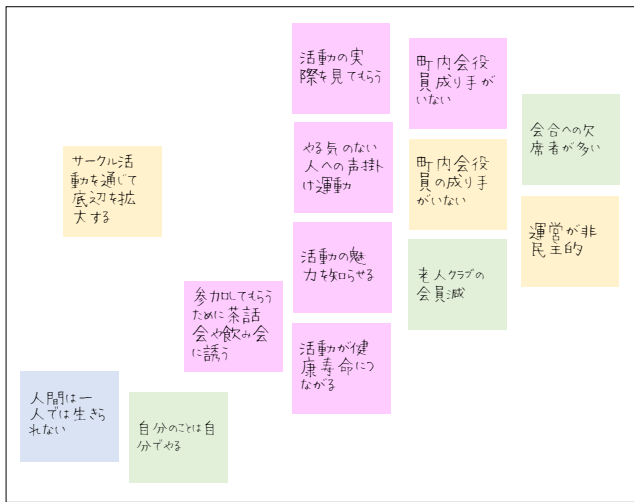
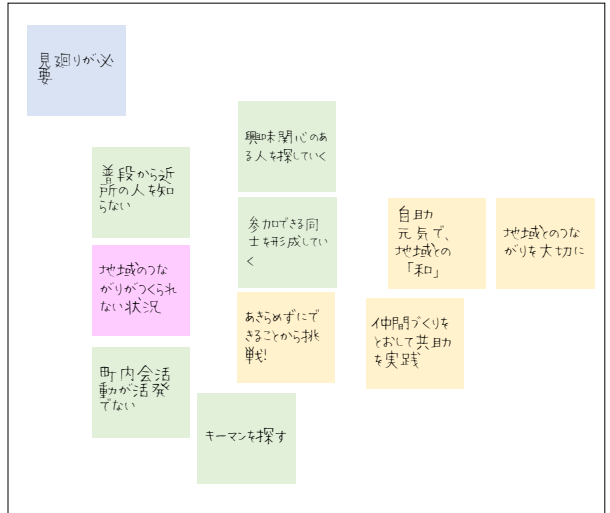
後継者不足、三世交代、マンネリ化からの脱却、飲みにケーション、気軽に参加、巻き込む力





Bグループ

主なキーワード：自助、共助、見廻り、つながり



Cグループ

主なキーワード
成り手不足、声掛け、活動を知ってもらう、見ってもらう、参加への導入に飲み会や茶話会を実施

3. 講評



北翔大学
学長 山谷敬三郎 氏

実践発表への講評と、カウンセラーとしての経験談を交えながら、地域で子どもを育てることについてお話をいただきました。

丸尾氏実践発表への講評

- ✓ 自分事として取り組むことの重要性・・・自分事と捉えられる内容の活動でないと主体的に取り組むことはできない。
- ✓ 課題は後継者・・・後継者の育成は地域活動に限らず様々な場面で問題となっている。後継者は指名ではなく、日々の継続的・計画的な取り組みが必要。

平川氏実践発表への講評

- ✓ 声なき声をどのように拾うかが課題。そこが活動の一番難しい点である。

全体をとおしたまとめ

- ✓ 人間関係が希薄になっている。
- ✓ 子どもが育つ環境（仮親の存在や、いとこの人数など）が昔と比べて全く違う。
- ✓ そのような環境で育てている子どもたちに何が出来るか考えなおす必要がある。
- ✓ 親が子どものモデリングの対象となることが理想。役割を与えることで、それに応えようとして成長する。
- ✓ 地域が子供に目を向ける視点が変わっている。（同じ町内会で子どもが生まれたなどの情報が入らない。）
- ✓ 地域の人との感情交流が必要。